

周波数の国際協調利用促進事業 平成 31 年度 事前評価結果

案件名		実施期間	評価会での主なコメント	評価点
電波監視技術の国際協調利用促進	短波帯監視システム	H31-H34	<ul style="list-style-type: none"> ・センサー局を多国間で運営し、電波監視能力を改善することは設置国だけでなく日本にとっても有益である。石垣局が本土のシステムと結合できるのであれば、初年度からセンサー局の製造に着手することは妥当だと考える。 ・まずは各国におけるニーズを、より明確にすべきと考える。他の先進国における同様のシステムについても明確に示した上で、それらシステムとの比較を率直に行うべきである。 	4.2
空港交通システムの高度化技術の国際協調利用促進	地上型衛星航法補強システム (GBAS)	H31-H34	<ul style="list-style-type: none"> ・電波利用による効率化・経済性向上が想定され、電波の有効利用という目的に十分合致している。ENRI の電離圏モニタを利用することで、日本の技術推進という観点からも有効である。しかし、Honeywell 社製品に対する優位性を明確に示すことが必要である。他プロジェクトとも連携可能であり、実証実験のフィールドとして想定するベトナムをショーケースに、国交省とも連携して効果的な宣伝に努めることが示されている。 ・日本のシステムのセールスポイントをより明確にできるよい。既に製品化を完了している Honeywell 社のシステムがあることを踏まえると、東南アジアといえど、市場の獲得は容易ではないと推察する。各国との他分野を含めた協調が必要であると共に、発表中に言及があった通り、他システム (マルチラテレーション、リニアセル等) との抱き合わせや、人材育成の観点も含めた売り出し方など、異なる方向からのアプローチが必要であると考え。 	4.4